市議会議員 村上ひろしの NEW & GOODS

vol. 2

◀村上ひろし公式ホームページ

〒862-8601 熊本市中央区手取本町１－１
TEL(096)328-2650 FAX (096)324-7777

2020年　9月発行

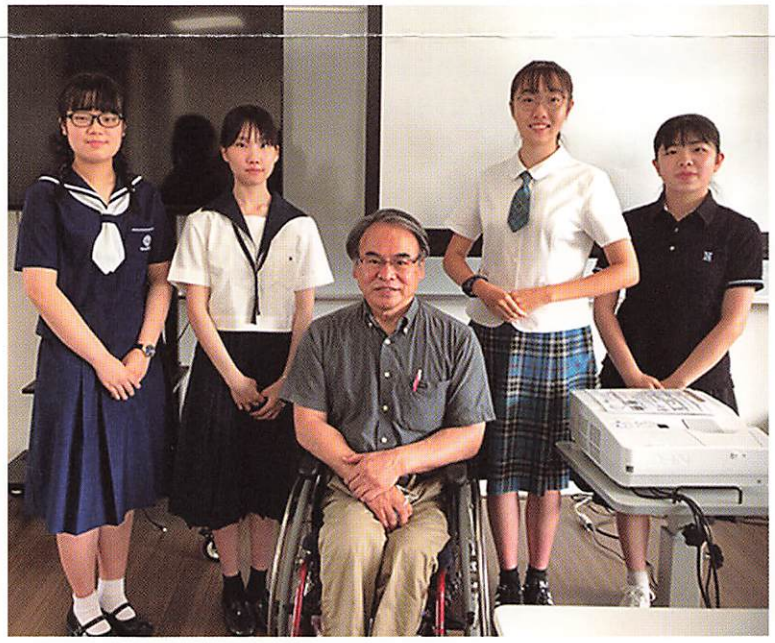
7月18日(土)、熊本市中央公民館で2月15日以来となる「村上ひろし市政報告会」を久しぶりに開催しました。

村上ひろし市政報告会開催!!

高校生平和大使と高校生1万人署名活動

今回は、核廃絶の世界平和を目指すための街頭署名など、高校生1万人署名活動実行委員会の活動を報告してもらい、改めて、その社会的意義や次代を担う高校生たちの平和への想いを参加者と共有するために企画しました。

会場は熊本市中央公民館。新型コロナの影響で、定員92名の会場に28名の入場制限を設けられました。会場確保のもう一つの条件は、参加者名簿と当日の健康チェック表を提出することでした。



報告してくれた高校生たち。
左から2人目が第23代高校生平和大使の水上真菜さん(大津高校2年)

平和への熱い想い!

高校生たちの平和に対する想いや活動を始めたきっかけ、1万人街頭署名活動とジュネーブ国連軍縮局への署名提出、韓国派遣、長崎派遣など幅広い活動が報告されました。

報告後、参加していた大学生たちからの質問や感想が述べられるなど、次代を担う若者たちのやり取りに、多くの参加者が新鮮さを感じると同時に、希望も感じる報告会となりました。

私は、6月議会の報告のほか、障害福祉サービスの利用者やヘルパーに、新型コロナの感染者が発生した場合のシュミレーションを検討する訪問介護事業所と行政との意見交換の場を設定、協議したことを報告しました。

今後もその時々に応じたテーマを設け、2ヶ月おきに開催していくことを事務局で確認しました。

議員インターンシップ

8月8日、熊本学園大学のバリアフリー見学。

熊本学園大学はなぜ、日本一のバリアフリー大学と言われているのでしょう。

それは、前身の熊本商科大学に、社会福祉学部を増設、総合大学になりましたが、文部科学省の担当者が現地調査に訪れた際、行き届いたバリアフリーに驚き、"日本一のバリアフリー大学"と評価したからです。

最初の外付けエレベーターが付いた4号館前で説明

バリアフリーのきっかけは、高校生の時の交通事故で、頸椎損傷の障害を負い、車いす利用の学生が受験を望んだことです。学内の会議で議論した結果、受験を認め、その学生は見事に合格しました。

その際、4号館と3号館に外付けのエレベーターが設置されました。当時の建設額で、1箇所5千万円、合わせて1億円と聞いています。

他にも車いすトイレや校舎の入り口にスロープを設置するなど、それなりの投資が必要でした。地方の私立大学としてはかなりの決断だったと思います。

受け入れるためには4年間の教育期間を保証するとの理事会での決定がありました。受け入れ決定に大きな役割を果たしたのが「差別と人権委員会」の存在です。

今では新校舎が建設される時は最初からEVが計画され、それほど建設額を圧迫する事はないそうです。

新型コロナ緊急対策　第7弾

8月4日に、新型コロナウイルス感染症に係る緊急対策第7弾が打ち出されました。
《健康福祉局分》

保健所体制強化

- 臨床検査技師、4名雇用(930万円)
- 検体搬送、2名雇用(240万円)
- 陽性患者搬送、民間タクシー会社委託(275万円)
- 民間コールセンター委託(6,650万円)
- 電話回線増設(250万円)

PCR検査体制充実

- 民間検査機関CISへ検査装置補助(505万円)⇒80検体増加
- PCRセンター抗原検査装置導入補助(690万円)⇒60検体増加
  全体で340検体増加見込み

妊婦さんへのPCR検査助成費用(8,400万円)

- 2万円を上限に検査費用を助成

『New & Goods』って何?

障害者が地域で生活する自立生活運動はアメリカで大きな盛り上がりをみせました。

日本での自立生活運動はアメリカの動きに刺激を受けました。

1970年代から1990年代、キリン財団が障害者のアメリカへの留学費用を助成、先進地アメリカの障害者たちのパワフルな社会参加運動を目の当たりにした障害者たちが、帰国後、全国各地で自立生活運動を展開、一気に広がりました。

自立生活運動のリーダーたちは、日本各地で障害者の自立生活セミナーを展開、この自立生活セミナーで行われたのが、ピアカウンセリングです。

ピアと言うのは、同じ背景を持った仲間とでも言うのでしょうか。

当時、障害者が地域で自立生活をするにはまだまだ制度面でも、社会の理解面でも、条件が整っていませんでした。そんな状況で自立生活を行うには、障害者のエンパワメントや自己肯定感がとても重要であり、絶対に必要でした。そのため、ピアカウンセリングのリーダーも同じ体験を持った仲間、いわゆるピアである事が条件でした。

ピアカウンセリングの中で行われていたプログラムの一つが、「New & Goods」でした。小グループに分かれ、グループリーダーが、その日初めての体験やこれまでで1番良かったこと、悪かったことは何ですか?と全員に尋ねました。

初めて顔を合わせる参加者ですが、同じ体験をして来た仲間たち、と言う思いから、全員が自分の人生を振り返り、話し始めるのです。いつのまにか、障害者たちの気持ちの中に力強いエンパワメントがみなぎり、地域での自立生活運動のエネルギーに繋がったのです。

その後、全国各地でエンパワメントを蓄えた障害者たちが、自立生活運動を通して、街を、社会を変えていったのです。

私にとっても、ピアカウンセリングは、とても貴重な機会でした。さぁ、皆さんにとっての「New & Goods」は何でしょうか!!